



令和5年度全国学力・学習状況調査

「全国学力・学習状況調査」は、小学6年生と中学3年生を対象に、「今後の学びの基礎となる学習内容」や「実生活において不可欠な知識及び技能」等の習得状況のほか、学習意欲や学習環境等を調査するものであり、その結果を踏まえて、学校や地域で課題を整理し、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等を図ることを目的としています。4月18日（火）に実施された本調査の結果が7月末に公表されました。今年度は、毎年実施している国語、算数・数学に加え、4年ぶり2回目となる中学校英語の調査が行われました。

今年度の教科に関する調査結果は、次のとおりです。

＜R5全国学力・学習状況調査 教科調査結果＞〔平均正答率〕

		国語(%)	算数・数学(%)	英語(%)
小	県	67	62	
	国	67	63	
中	県	69	50	43
	国	70	51	46

これまで、「各教科の平均正答率が全国平均以上」となることを学力向上施策の成果指標として各種施策に取り組んできましたが、今回、教科別の平均正答率は、小学校国語を除く、全ての教科において全国平均を下回る結果となりました。特に中学校英語においては、全国平均との差が前回（R1）「-1」から今回「-3」に広がりました。

設問別にみても、昨年度課題であった思考力、判断力、表現力等を問う問題については改善傾向がみられた一方、複数の情報の関係を様々な方法で整理することで、考えをより明確なものにしたり、思考をまとめたりするといった知識・技能の活用及び読解力に課題がみられました。急速に情報化が進展する社会において、情報活用に係る資質・能力の育成が求められており、今後は読解力の育成を目指した授業改善が必要であると捉えています。

次の資料は、今回の調査で課題のみられた読解力を要する問題の例です。小学校国語では、児童が「栄養素の働き」に関するパンフレットのページに書き込まれた図や線を見て、何をどのように整理したものか、正しい説明を選択する問題が出題さ

れました。県の平均正答率は60.7%で全国を下回っており、情報と情報の関連付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解して使うことに課題が見られます。中学校英語においては、友達からのメールを読み、相手が示した条件に合うイベントとして最も適切なものを選択する問題などの平均正答率が全国平均を大きく下回っており、日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取るような問題にも課題が見られます。

小学校国語・大問2-3 【県平均正答率】60.7% 【全国平均正答率】62.0%

【資料3】相田さんが書きこみをしたパンフレットのページ。

栄養素の働き

規則正しく食事をとることにより、^{のう}脳が活発に働いたり、**元気に運動**したりすることができます。ただし、同じものや好きなものばかり食べていると、栄養がかたよってしまい、つかれやすくなったりいらいらしたりします。

食品は、栄養素の主な働きによって、下のよう、主に三つのグループに分けることができます。

米やパンなどは、主に**エネルギーのもと**になります。肉や卵^{たまご}などは、主に体をつくるもとになります。**筋肉がついたり**、けがが治りやすくなったりします。野菜や果物などは、主に体の調子を整えるもとになり、**病気にかかりにくく**なります。

相田さんは、食事の面から健康について考えている友達の話を聞いて、【資料3】に興味をもちました。次は、相田さんが、四角や丸で囲んだり線をつないだりして整理している【資料3】です。相田さんは、何をどのように整理していますか。その説明として最も適切なものを、あとの1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 自分にとって分からない言葉を四角や丸で囲み、運動と栄養素の働きとの関係を線でつないで整理している。
- 2 自分にとって重要な言葉を四角や丸で囲み、食品と栄養素の働きとの関係を線でつないで整理している。
- 3 自分にとって分からない言葉を四角や丸で囲み、食品と栄養素の働きとの関係を線でつないで整理している。
- 4 自分にとって重要な言葉を四角や丸で囲み、運動と栄養素の働きとの関係を線でつないで整理している。

〈正答〉 4

中学校英語・大問6 【県平均正答率】30.8% 【全国平均正答率】35.9%

次の英文は、友達のデイビッド (David) があなたに送ったメールです。メールを読んで、デイビッドにおすすめのイベントとして最も適切なものを、右の1から4までの中から1つ選びなさい。

☐ ☐ ☒

Events on the Weekend

Date April 13, 2023 18:45

From David

Hello. How are you?
I'm excited to stay at your house this weekend.

I hear your town has some events on the weekend. I want to join one of them with you. Which event is the best? We both love sports, music, and cooking, right? Let's choose from among them.

I will arrive on Saturday afternoon. I have to leave before 4 p.m. on Sunday because I will have dinner with my family.

I'm looking forward to seeing you soon.

↩

1 Rugby Game



Let's watch together!

Date & Time
Saturday, April 15
9:30 a.m. - 11:30 a.m.

Place
Midori Park

2 Flower Market



You can buy beautiful flowers!

Date & Time
Saturday, April 15
9:00 a.m. - 4:00 p.m.

Place
Hikari Garden

3 City Orchestra



You can enjoy a wonderful performance!

Date & Time
Sunday, April 16
1:00 p.m. - 3:00 p.m.

Place
Tsubomi Hall

4 "Cook & Eat"



Let's enjoy cooking and eating!

Date & Time
Sunday, April 16
4:00 p.m. - 7:00 p.m.

Place
Cooking Room "Wakaba"

〈正答〉 3

次に、児童生徒質問紙調査の結果です。



〈将来の夢や目標について〉

○ 将来の夢や目標をもっている児童生徒

	R5 (全国)	R4 (全国)	R3 (全国)
小学校	83.8% (81.5%)	82.7% (79.8%)	82.1% (80.3%)
中学校	68.9% (66.3%)	70.3% (67.3%)	71.3% (68.6%)

〈読書について〉

○ 平日に、1日30分以上読書をしている児童生徒

	R5 (全国)	R4 (全国)	R3 (全国)
小学校	33.4% (37.3%)	33.6% (36.4%)	36.1% (37.4%)
中学校	27.1% (28.4%)	27.6% (27.3%)	28.8% (28.9%)

〈学習習慣について〉

○ 家で自分で計画を立てて勉強をしている児童生徒

	R5 (全国)	R4 (全国)	R3 (全国)
小学校	73.4% (70.7%)	72.3% (71.1%)	77.7% (74.0%)
中学校	51.7% (55.0%)	55.9% (58.5%)	63.5% (63.5%)

「将来の夢や目標をもっている」と答えた児童生徒の割合は、小・中学校ともに全国平均に比べて高くなっており、良好な状況が続いています。先生方が日々の学校生活において、子供たちの主体性や自己肯定感を育むとともに、「えひめジョブチャレンジU-15事業」などを通して、キャリア教育の充実を図られている成果だと考えています。

一方、「平日に、1日30分以上読書をしている」と答えた児童生徒の割合は、小・中学校ともに全国平均を下回っており、引き続き、読書活動の充実が本県の課題として挙げられます。そのような中、電子版読書通帳「みきゃん通帳」は、児童生徒の読書意欲を喚起するとともに、読書傾向への自覚を促すことで幅広い分野への興味をもたせ、知的好奇心を高めることが期待できるものです。今後も「みきゃん通帳」を効果的に活用することで、読書習慣の定着を図るとともに、読解力の向上につなげてほしいと思います。

また、「家で自分で計画を立てて勉強をしている」と答えた児童生徒の割合は、小学校は全国平均を上回っているものの、中学校は大きく下回っています。7月に各学校に配布している児童生徒が自らの学びを振り返るための「学びのチェックリス

ト」を活用するなど、基本的な学習習慣の定着に向け、学校と家庭が連携した取組等を工夫してほしいと思います。

県教育委員会では、今回の結果に危機感をもっています。早急に対策を講じるとともに、当該学年や当該教科の先生方だけでなく、県、市町、学校それぞれが結果をしっかりと受け止め、共通理解を図り、今後の教育活動に生かしていく必要があると考え、早速8月30日に、臨時の学力検証会議を開催し、本調査の結果から見えた、県及び市町の取組に対する成果及び課題と今後の対策について、全市町教育委員会と協議し共有しました。また、今月7日には臨時の学力向上推進主任研修会を開催し、学力向上で大きな成果を上げている学校の好事例を共有することで、県、市町、学校が一体となって、学力向上に向けて更なる授業改善等の対策を進めていく予定です。各学校でも結果を詳細に分析し、自校に何が足りないのかを把握し、その改善に努めることが重要だと思えます。そして、何よりも大切なことは、今回調査を受けた子供たちの振り返りをしっかりと行うことです。調査で解けなかった問題を解けるようにするという取組が必須だと考えています。

今後は、目的に応じた最適なICT活用が教育の質向上の大きな鍵となります。小学校低学年では紙媒体での読み書きを重視し、基礎・基本の確実な定着を図るなど、発達の段階に応じた活用を進めるとともに、今年度よりスタートした「第4期学力向上推進3か年計画」に基づき、本県教員の高いICT指導力を生かして、伝統ある愛媛教育と適切なICT活用のベストミックスを図った授業改善を推進することで、子供たちの更なる学力向上に努めていきたいと考えています。

これまでに成果のあった取組を継続するとともに、読書習慣の定着や英語力の向上など、本県の学びの課題克服に引き続き取り組むことで、全ての子供の可能性を引き出す学びの実現に、共に最善を尽くしていきましょう。

